

トップジンM水和剤

(TOPSIN-M WP)

登録番号 第11573号

種類名 チオファネートメチル水和剤
thiophanate-methyl

殺菌剤分類 1

性状 淡褐色水和性粉末 45 μm以下

有効年限 4年

有効成分 チオファネートメチル 70.0%

P R T R チオファネートメチル(PRTR・1種) 70.0%

毒性 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

包装 250g×60袋、500g×20袋

■特長

1. 予防効果はもちろん、優れた浸達性・浸透移行性による高い治療効果も有するため、基幹防除剤として使用できます。
2. 残効性と耐雨性を有し、優れた効果が長持ちします。
3. 幅広い作物と病害に登録を有します(約90作物、180病害)。
4. 登録作物に対する安全性が高い薬剤です。
5. 微小管形成阻害と呼吸阻害活性を示し、病原菌の生活環のほとんどのステージに作用します。

■適用病害名及び使用方法

(2022年6月22日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数	使用方法
みかん	そうか病	30	8ℓ/10a	4～6月	5回以内	8回以内	空中散布
	灰色かび病 そうか病	1,000～1,500				[塗布は3回以内、 散布、空中散布 及び無人航空機 散布は合計5回以内]	
かんきつ (みかんを除く)	貯蔵病害 [軸腐病] [青かび病] [緑かび病]	2,000～3,000	200～700 ℓ/10a	収穫前日 まで	5回以内	8回以内 [塗布は3回以内、 散布及び 無人航空機散布 は合計5回以内]	散布
りんご	黒星病 うどんこ病 黒点病、褐斑病	1,000～2,000	—	休眠期～ 生育期	6回以内	10回以内 [塗布は3回以内、 灌注は1回以内、 散布は6回以内]	灌注
	腐らん病 モニリア病(実腐れ) 輪紋病 すす点病 すす斑病	1,000～1,500					
りんご(苗木) なし(苗木)	白紋羽病	500～1,000	—	植付前	1回	6回以内	10分間 根部浸漬
なし		500～1,000	200～700 ℓ/10a	休眠期	6回以内	11回以内 [塗布は3回以内、 休眠期の散布は 1回以内、 灌注は1回以内、 生育期の散布は 6回以内]	灌注
	黒星病 うどんこ病	1,000～2,000					
	腐らん病	1,000					
	輪紋病 心腐れ症(胴枯病菌) 胴枯病	1,000～1,500					
マルメロ かりん	腐らん病	1,000～1,500	—	—	—	9回以内 [塗布は3回以内] 散布は6回以内]	散布

殺菌剤 トップジンM水和剤

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数	使用方法
かき	うどんこ病 炭疽病、落葉病 黒星落葉病 すす点病	1,000 ~ 1,500	200 ~ 700 ℓ / 10a	収穫前日まで	6回以内	10回以内 [塗布は3回以内、 休眠期の散布は、 1回以内、 生育期の散布は 6回以内]	散布
	灰星病、黒星病 ホモブシス腐敗病						
もも	枝折病、うどんこ病	1,000					
もも(苗木)	白紋羽病	500	—	植付前		7回以内 (散布は6回以内)	10分間 根部浸漬
ぶどう	灰色かび病、褐斑病 うどんこ病 黒とう病	1,000 ~ 2,000	200 ~ 700 ℓ / 10a	収穫45日 前まで	1回	5回以内 [塗布は3回以内、 休眠期の散布は 1回以内、生育期 の散布は1回以内]	散布
	晩腐病、芽枯病	1,000					
	苦腐病	1,000 ~ 1,500					
小粒核果類	灰星病 環紋葉枯病 葉炭疽病 黒星病 黒粒枝枯病	1,000 ~ 1,500		収穫21日 前まで	3回以内	すももは6回以内 [塗布は3回以内、 休眠期の散布は 1回以内、生育期 の散布は3回以内 その他の小粒核 果類は6回以内 [塗布は3回以内、 散布は3回以内]	散布
おうとう	灰星病 せん孔病 幼果菌核病			収穫14日 前まで		6回以内 [塗布は3回以内、 散布は3回以内]	
びわ	ごま色斑点病	800					
	灰斑病	800 ~ 1,000				7回以内 [塗布は3回以内、 散布は3回以内、 灌注は1回以内]	
	白紋羽病	300 ~ 500	—	収穫後 [7月上旬~ 9月上旬]	1回		灌注
いちじく	株枯病	500	1 ~ 10 ℓ / 株	収穫前日 まで	6回以内	14回以内 [塗布は3回以内、 灌注は6回以内、 散布は5回以内]	散布
	黒かび病 そうか病	1,000 ~ 1,500		収穫7日 前まで	5回以内		
	黒葉枯病						
キウイフルーツ	果実軟腐病			収穫前日 まで		8回以内 [塗布は3回以内、 散布は5回以内]	
くり	実炭疽病	1,000	200 ~ 700 ℓ / 10a	収穫3日 前まで	4回以内	7回以内 [塗布は3回以内、 散布は4回以内]	散布
あけび(果実)	うどんこ病			収穫7日 前まで	3回以内	3回以内	
オリーブ	梢枯病			収穫30日 前まで	2回以内	5回以内 [塗布は3回以内、 散布は2回以内]	

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数	使用方法
水 稲	ばか苗病	300～500	—	は種前 浸種前 又は 浸種後	1 回	3 回以内 〔種子への処理は 1 回以内〕	6～24時間 種子浸漬
		30					10分間 種子浸漬
小 麦	雪腐病	1,000～2,500	60～150 ℓ/10a	根雪前	3 回以内 〔出穂期以降 は2回以内〕	4 回以内 〔種子への処理は 1 回以内、散布 及び 無人航空機散布は 合計3回以内、 出穂期以降は 2回以内〕	散 布
	雪腐大粒菌核病	1,000	25ℓ/10a				
	赤かび病	250～500	60～150 ℓ/10a	収穫14日 前まで			
	うどんこ病	250					
	眼紋病	1,000～1,500					
うどんこ病	1,000～2,000						
眼紋病	1,000						
麦 類 (小麦を除く)	雪腐病	1,000～2,500	60～150 ℓ/10a	根雪前	3 回以内 〔出穂期以降 は1回以内〕	3 回以内 〔種子への処理は 1 回以内、出穂期 以降は1回以内〕	
	赤かび病	1,000～1,500		収穫30日 前まで			
	うどんこ病	1,000～2,000					
	眼紋病	1,000					
だ い ず	紫斑病	種子重量の0.5%	—	は種前	1 回	4 回以内 〔種子への処理は 1 回以内〕	粉 衣
		700～1,500		収穫14日 前まで			
え だ ま め	菌核病	700～1,000	—	収穫7日 前まで	3 回以内	4 回以内 〔種子への処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内〕	
				2,000			
ら っ か せ い	褐斑病、黒渋病 灰色かび病	1,500～2,000	—	収穫7日 前まで	4 回以内	5 回以内 〔種子への処理は 1 回以内、は種後は 4 回以内〕	散 布
	そうか病、茎腐病	1,500		収穫14日 前まで			
あ ず き	菌核病 輪紋病、炭疽病	700～1,000	100～300 ℓ/10a	収穫7日 前まで	4 回以内	5 回以内 〔種子への処理は 1 回以内、は種後は 4 回以内〕	散 布
いんげんまめ	角斑病、菌核病 苗立枯病	700～1,500		収穫7日 前まで			
	えんどうまめ	炭疽病	1,500～2,000				
さやえんどう 実えんどう	褐紋病、褐斑病 灰色かび病	1,500～2,000	—	収穫前日 まで	3 回以内	4 回以内 〔種子への処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内〕	
				2,000			
れんこん	褐斑病	1,500	—	収穫7日 前まで	5 回以内	5 回以内	
やまのいも	葉渋病、炭疽病	800	—	収穫45日 前まで	5 回以内	5 回以内	
やまのいも (むかご)							

殺菌剤 トップジンM水和剤

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数	使用方法		
ばれいしょ	菌核病	1,000～1,500	100～300ℓ/10a	収穫7日前まで	5回以内	5回以内 [種いもへの処理は1回以内]	散布		
かんしょ	基腐病	200～500	—	貯蔵前～伏せ込み前	1回	1回	30分間採苗種いも浸漬		
	黒斑病			植付前			20～30分間種いも又は苗基部浸漬		
さといも さといも(葉柄)							20～30分間種いも浸漬		
にら	白斑葉枯病 乾腐病	1,000	3ℓ/m ²	収穫21日前まで	2回以内	2回以内 [種子への処理は1回以内、は種後は1回以内]	灌注		
レタス	ビッグベイン病 菌核病 すそ枯病	1,500	1.5ℓ/m ²	収穫45日前まで		4回以内 [種子への処理は1回以内、灌注は1回以内、散布は2回以内]			
非結球レタス	菌核病 灰色かび病	1,500～2,000		収穫7日前まで	2回以内	3回以内 [種子への処理は1回以内、は種後は2回以内]			
キャベツ	根朽病、株腐病	1,000	収穫21日前まで						
はくさい	菌核病	1,500～2,000	収穫3日前まで	2回以内	3回以内 [種子への処理は1回以内、は種後は2回以内]				
	白斑病、炭疽病	1,500～2,000	収穫7日前まで						
セルリー	斑点病	1,500	収穫60日前まで	2回以内	3回以内 [種子への処理は1回以内、は種後は2回以内]				
せり	葉枯病	1,500	収穫14日前まで						
ブロッコリー カリフラワー	菌核病	2,000	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	5回以内 [種子への処理は1回以内、塗布は1回以内、散布は3回以内]	散布		
メロン	つる枯病 陥没病	1,500～2,000	100～300ℓ/10a	3回以内					
かぼちゃ	白斑病	1,000	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	5回以内	6回以内 [種子への処理は1回以内、は種後は5回以内]	散布		
すいか	炭疽病、菌核病	1,500～2,000							
きゅうり	菌核病、黒星病								
	炭疽病、つる枯病								
うり類 (漬物用)	うどんこ病 灰色かび病								
にがうり	炭疽病、斑点病								
トマト ミニトマト	葉かび病、菌核病 灰色かび病								
なす	黒枯病、菌核病 灰色かび病								
アスパラガス	茎枯病、立枯病							1,000	※収穫開始7日前まで

※アスパラガスの使用時期は収穫開始7日前まで(収穫開始後は使用しない)。

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数	使用方法
てんさい	褐斑病	2,000～3,000	100～300ℓ/10a	収穫7日前まで	5回以内	5回以内	散布
なたね	菌核病	1,000		収穫21日前まで	3回以内 [開花後は] 2回以内	3回以内 [開花後は] 2回以内	
	雪腐菌核病		根雪前				
食用ゆり	鱗茎さび症	50	—	植付前	1回	1回	球根瞬間浸漬
ねぎ	小菌核腐敗病	1,000	100～300ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	5回以内 [種子への処理は1回以内、苗根部浸漬及び苗床灌注は合計1回以内、散布及び株元散布は合計3回以内]	散布
		250	チエンポット1冊(30×60cm、土壌量約5ℓ)当り0.5～1ℓ	定植直前	1回		苗床灌注
	20	—					3分間苗根部浸漬
	200						30分間苗根部浸漬
葉たまねぎ	黒点葉枯病	1,000	100～300ℓ/10a	収穫14日前まで	3回以内	4回以内 [種子への処理は1回以内、は種後は3回以内]	散布
たまねぎ	小菌核病 灰色腐敗病	500～1,000		収穫前日まで	6回以内 [但し、定植後は5回以内]	7回以内 [種子への処理は1回以内、苗根部浸漬は1回以内無人航空機散布は3回以内、散布は5回以内]	5分間苗根部浸漬
	灰色腐敗病	500	定植直前				
らっきょう	乾腐病	1,000	700ml/m ²	収穫7日前まで	3回以内	3回以内	株元灌注
しょうが	いもち病、白星病			2回以内	2回以内		
ピーマン	黒枯病	4,000～6,000	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	4回以内 [種子への処理は1回以内、は種後は3回以内]	散布
ししとう		10,000				3回以内	
オクラ	葉すす病	1,500				—	
ズッキーニ	うどんこ病		5分間株浸漬				
いちご			株冷蔵栽培の株冷蔵前	1時間苗根部浸漬			
		萎黄病	300～500	仮植前			灌注
			3ℓ/m ²	仮植時及び仮植栽培期			
食用ぎく	褐斑病	1,500	100～300ℓ/10a	収穫28日前まで	2回以内	3回以内 [種子への処理は1回以内、は種後は2回以内]	散布
食用べにばな(花)	炭疽病			収穫14日前まで			

※いちごの使用時期は収穫開始21日前まで(収穫開始後は使用しない)。

殺菌剤 トップジンM水和剤

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数	使用方法
みつば	菌核病	2,000	100～300 ℓ/10a	収穫14日前まで、但し、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで	2回以内	3回以内 〔種子への処理は1回以内、は種後は2回以内〕	散布
みしまさいこ	炭疽病	1,000		収穫30日前まで			
甘草	株枯病	200	—	植付前	1回	1回	30分間 苗浸漬
たらのぎ	芽枯症	2,000	0.1～0.3 ℓ/m ²	伏せ込み後萌芽前 但し、収穫21日前まで	1回	3回以内 〔伏せ込み前は2回以内、伏せ込み後は1回以内〕	駒木散布
	そうか病	1,500	200～700 ℓ/10a	伏せ込み前 但し、収穫60日前まで	2回以内		
茶	炭疽病、白星病 褐色円星病 輪斑病	1,500～ 2,000	200～400 ℓ/10a	摘採7日前まで	1回	1回	
	黒葉腐病	1,500					
たばこ (苗床)	腰折病	1,000～ 2,000	2ℓ/m ²	苗床期	2回以内	2回以内	
	黒根病	1,000					
いね科牧草	雪腐大粒菌核病	1,500～ 2,000		根雪前	1回	1回	
まめ科牧草		2,000			1回	1回	
花き類・観葉植物 (トルコギキョウを除く)	菌核病	1,500					散布
トルコギキョウ	菌核病、斑点病						
ばら	うどんこ病 黒星病	1,500～ 2,000	100～300 ℓ/10a	—	5回以内	5回以内	
シクラメン	灰色かび病						
さくらそう	葉枯病、茎腐病						
ゆり	褐斑病						
きく	芽腐病						
カーネーション	茎腐病、輪紋病						
ほおずき	半身萎凋病						
きんせんか							
りんどう	花腐菌核病						
観賞用 アスパラガス	茎枯病						
べにばな	炭疽病	1,500			2回以内		
チューリップ	球根腐敗病	球根重量 の0.1%	—	植付前又は 貯蔵前	1回		球根粉衣
樹木類 (つつじ類、かし、 じんちょうげ、 さくら、ポプラ、 ぼけ、いぬつげ を除く)	うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点病 (シュードサーコスポラ菌)	1,000	200～700 ℓ/10a	発病初期	5回以内		散布
	炭疽病	1,000～ 2,000					

殺菌剤 トップジンM水和剤

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数	使用方法
つつじ類	炭疽病	1,000～2,000	100～300 ℓ/10a	発病初期	5回以内	5回以内	散布
	褐斑病	1,000～1,500					
さくら	うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症 (シュードサーコスポラ菌)	1,000	200～700 ℓ/10a				
	幼果菌核病	1,000～1,500					
	炭疽病	1,000～2,000					
かし	紫かび病	1,000	200～700 ℓ/10a				
	うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症 (シュードサーコスポラ菌)						
じんちょうげ	黒点病	1,000	100～300 ℓ/10a				
	炭疽病						
ぼけ	炭疽病	1,000～2,000	100～300 ℓ/10a				
	うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症 (シュードサーコスポラ菌)	1,000					
ポプラ	マルゾニナ落葉病	1,000	200～700 ℓ/10a				
	炭疽病						
いぬつけ	うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症 (シュードサーコスポラ菌) 枝枯病	1,000	200～700 ℓ/10a				
	炭疽病	1,000～2,000					
桑(苗木)	白紋羽病	500	—	植付前	1回	3回以内	10分間 根部浸漬
桑	裏うどんこ病 汚葉病	1,000～2,000	100～300 ℓ/10a	—	3回以内		3回以内
	輪斑病	1,000～1,500					

作物名	適用場所	適用病害名	10アール当たり		使用時期	本剤の使用回数	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数	使用方法
			使用量	使用液量				
トマト	温室、ガラス室、ビニールハウス等、密閉できる場所	灰色かび病	100～200g	5ℓ	収穫前日まで	5回以内	6回以内 〔種子への処理は1回以内、は種後は5回以内〕	常温煙霧

△ 効果・薬害などの注意

1. 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
2. ボルドー液との混用はさけてください。
3. かんきつの貯蔵病害防除に使用する場合には、青かび病、緑かび病、軸腐病、黒斑病、灰色かび病には有効ですが、黒腐病には効果が劣るので黒腐病防除が主体の場合には使用しないでください。また、収穫前3週間以内〔かんきつ（みかんを除く）の場合には収穫前2～3週間の間〕に1回散布すると効果的です。
4. りんごの腐らん病防除に対する使用は生育期における病菌の感染侵入阻止を目的として散布するので、生育期の通年散布としてください。
5. ぶどうに使用する場合、幼果期以降の散布は果粉の溶脱や果実の汚れを生じるおそれがあるので注意してください。
6. いちごに対して使用する場合には下記の注意を守ってください。
 - (1) 萎黄病防除に使用する場合には下記の注意を守ってください。
 - i) 萎黄病多発地では浸漬処理、灌注処理のみでは効果が不十分な場合もあるので、植付前には土壌くん蒸を行い、本剤処理との組み合わせで防除すると有効です。
 - ii) 灌注する場合は下記の注意を守ってください。
 - a) 土壌の種類や条件によって効果に差が認められるので注意してください。
 - b) 萎黄病は、土壌温度の高い時（20℃以上）に発生しやすいので、地温の高い仮植時期に処理してください。
 - c) 土壌条件などによっては葉色が劣ったり、多少生育抑制のみられる場合もありますが、その後の生育や収量への影響は認められていません。
 - iii) 苗根部浸漬する場合は、浸漬時間が長く（所定時間以上）になると薬害（活着不良）を生じるおそれがあるので、処理時間を厳守してください。
 - (2) うどんこ病防除に使用する場合に下記の注意を守ってください。
 - i) 株浸漬する場合は下記の注意を守ってください。
 - a) 株冷蔵栽培いちごの定植時に、無病苗を得るため、冷蔵前に処理するものです。うどんこ病の発生まん延時の防除とは異なるので注意してください。
 - b) 浸漬処理薬液が葉裏まで十分付着するように薬液には展着剤を加用し、水洗した苗株を株全体がつかるように浸漬し、苗を薬液中で2～3回上下にゆすってください。
 - c) 本剤処理した苗株は、水洗せずに半乾きとした後、ビニール袋に入れ、慣行に従って冷蔵してください。
 - d) 冷蔵後、定植前の処理では、効果が劣ることがあるので、必ず冷蔵前に処理してください。
 - ii) 散布する場合は、葉及び果実に汚れを生じるおそれがあるので注意してください。
7. いちじくに対して灌注処理する場合は次の事項に注意してください。
 - (1) 1ヶ月間隔で使用することをおすすめします。
 - (2) 生育抑制などの薬害を生じるおそれがあるので、ポット栽培などの根域が抑制される栽培条件での使用はさけてください。
8. 水稲の種子消毒に使用する場合は、次の注意を守ってください。
 - (1) 消毒後は水洗せずに浸種または、は種してください。
 - (2) 浸漬処理薬液の温度はなるべく10℃以下をさけてください。
 - (3) 種もみと浸漬処理薬液との容量比は1：1以上とし、種もみはサラン網などの目の粗い袋を用い、薬液処理時によくゆすってください。
 - (4) 低濃度（300～500倍）長時間浸漬の場合は、薬液浸漬処理中1～2回攪拌してください。
 - (5) 本剤処理を行った種子の浸種に当たっては次の注意を守ってください。
 - ① 薬剤処理した種もみは少なくとも数時間は放置して、風乾後浸種してください。
 - ② 浸種は停滞水中で行ってください。
 - ③ 浴比は1：2とし、水の交換は原則として行わないでください。但し液温が高温の場合など、酸素不足になるおそれがあるときには静かに換水してください。
 - (6) 薬剤処理した種子は、食料、飼料に使用しないよう注意してください。
9. れんこんに使用する場合、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
10. 麦の雪腐病防除に使用する場合、散布液量は10アール当たり100ℓを標準とします。なお、1回散布の場合はなるべく根雪近くに行うと効果的です。

11. 小麦の少量散布で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用してください。
12. チューリップの球根粉衣は植付前又は貯蔵前に球根1kgに対し本剤1gを均一に粉衣してください。
13. 大型散布機で使用する場合は、各散布機種種の散布基準に従って実施してください。
14. 本剤は、連続使用によって一部の病害に耐性菌を生じ、効果が劣った事例があるので、過度の連用を避け、なるべく作用性の異なる薬剤と組み合わせて輪番で使用してください。
15. だいつの紫斑病に対しては、落花後～若莢期に2～3回散布してください。
16. だいつの紫斑病防除には種子消毒のみでは不十分なので、生育期の散布による防除と組み合わせて使用してください。
17. 果樹の白紋羽病に対し、灌注処理する場合は樹幹部周辺の土壌を木の大きさに応じて掘りあげ、根を露出させ、病根をていねいに除去したのち、所定濃度の希釈液を1本当たり成木では200～300ℓ、苗木では20～30ℓ灌注してください。
18. かんしょ、さといもの種いもは消毒後は水洗せずに薬液が乾いてから植付けてください。薬剤処理した種いもは食料、飼料に使用しないでください。
19. アスパラガスの茎枯病防除は収穫打ち切り後、残茎を取り除き新しく萌芽した茎を対象としてください。
20. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。また、桑に使用後3日間は蚕に桑葉を給餌しないでください。
21. ハウス等の常温煙霧用として使用する場合は次の注意を守ってください。
 - (1) 専用の常温煙霧機により、所定の方法で煙霧してください。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
 - (2) 作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後6時間以上密閉してください。できれば翌朝までしてください。
22. たばこの親床での処理は、は種後10日目から1週間間隔で、子床での処理は仮植後7日目から1週間間隔で薬液を散布してください。
23. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
24. 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

△ 安全使用上の注意

25. 眼に対して弱い刺激性があるので、眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
26. 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
27. 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
28. かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
29. 常温煙霧中はハウス内へ入らないでください。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室してください。
30. 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

水産動植物への影響：水産動植物（魚類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。

保管：密封し、直射日光を避け、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所に保管してください。

-
- 火災時は、適切な保護具を着用し水・消火剤などで消火に努めてください。
 - 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収してください。
 - 移送取扱いは、ていねいに行ってください。
 - 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。